

ブラジルにおける日本祭り

桜井 悌司

1908年の笠戸丸でブラジルへの移住が開始されて以来、多数の移住者がブラジルに渡り、今では、日系人総数が約190万人と言われている。日系人は、歴代の大統領が絶賛するくらい、現地に融け込み、ブラジル社会に貢献してきた。サンパウロの移住博物館を見学しても、そのことが容易に理解できる。2億人を超えるブラジルの人口の1%にも満たない日系人の移民の歴史や活動を大きな展示スペースを割いて紹介している。加えて、日系人のブラジル社会への貢献を目に見えた形で紹介するイベントが、ブラジルの主要都市で毎年開催される“FESTIVAL DO JAPÃO”（日本祭り）である。特にサンパウロの「日本祭り」は世界最大の「日本祭り」である。本稿では、この魅力的なイベントであるサンパウロの「日本祭り」、パラナ州（クリチバ、ロンドリーナ、マリンガ）の4つの「日本祭り」、ポルトアレグレの「日本祭り」を比較しながら紹介する。執筆にあたっては、執筆者の経験に加え、各祭りのホームページ、在クリチバの日本総領事館、ポルトアレグレ在住の

和田好司氏、ジェトロ サンパウロ事務所等より情報を入手した。

各地の日本祭りは、何年に始まったのか？

2018年は、日本人移住110周年に当たるが、各地の「日本祭り」が何年に始まったのかを見てみよう。一番歴史があるのは、パラナ州のロンドリーナ市の“EXPO JAPÃO”である。前身の「日本祭り」が始まったのは1961年である。次いで、マリンガ市の“FESTIVAL NIPOBRASILEIRO”（日本ブラジル祭り）の1989年、クリチバ市の2つの日本祭りである“HARU MATSURI FESTIVAL DA PRIMAVERA”（春祭り）と“IMIM MATSURI FESTIVAL DA IMIGRAÇÃO JAPONESA”（移民祭り）は1991年と続く。サンパウロ州について日系移住者が多いパラナ州で「日本祭り」が、他州に先駆けて主要3都市で開催されたことは注目に値する。サンパウロの「日本祭り」は、1998年にブラジル移住80周年を記念して開始されたもので、「第1回郷土食郷土芸能祭」という名称であった。比較的最近に開始されたのは、リオグランデドスル州のポルトアレグレ市の「日本祭り」で、2012年である。ちなみにミナスジェライスやブラジリアの「日本祭り」も2012年の開始である。



サンパウロの日本祭りのポスター（写真はすべて各日本祭り主催団体のホームページより）



サンパウロの日本祭りの入り口

どのような会場で、どの程度の規模で行われているのか？

では、それぞれの「日本祭り」がどのような会場で行われているのかをみてみよう。サンパウロの「日

本祭り」会場は、当初サンパウロ市内のイビラプエラ公園内のマルキーゼであったが、2002年の第5回からは会場をサンパウロ州議会駐車場に移し、名称を「フェスティバル・ド・ジャポン」と改称した。その後2005年の第8回の際に、手狭になった会場をサンパウロの3大展示場の1つである「イミグランテス展示場」に移した。同展示場は、その後改装・拡張され、90,000㎡の屋内展示施設を持つサンパウロ最大の展示会場サンパウロ・エキスポ展示会場（SAO PAULO EXPO EXHIBITION & CONVENTION CENTER）として生まれ変わった。2015年から、日本祭りも新装なったサンパウロ・エキスポを使用するようになっている。サンパウロの日本祭りは、同展示場の屋内施設40,000㎡を使用する巨大イベントである。パラナ州の「日本祭り」の会場と規模は、マリンガの場合、マリンガ文化体育協会で、15,000㎡、ロンドリーナの場合、ロンドリーナ文化体育協会で1,000㎡、クリチバの2つのイベントの場合、ルノー・バリギ展示会場で9,000㎡を使用している。ポルトアレグレには、州政府の州警兵幹部養成学校（ACADEMIA DE BRIGADA MILITAR）で開催され、会場の総面積は12,000㎡であるが、グラウンド等は使用されていない。東京ドームのグラウンドの面積が13,000㎡なので、その規模がおおむね理解できよう。



マリンガの日本祭り会場入り口

誰が組織しているのか？

組織の主体はそれぞれの「日本祭り」で異なる。サンパウロはブラジル日本都道府県連合会（県連）

が組織している。日本の各都道府県からの出身移住者の団体を束ねる団体で、県連の最重要イベントが「フェスティバル・ド・ジャポン」（日本祭り）である。県連は、「ブラジル日本文化福祉協会」（文協）、「サンパウロ日伯援護協会」（援協）と並ぶ3大日系団体の1つである。パラナ州の場合、マリンガはマリンガ文化体育協会、ロンドリーナはロンドリーナ文化体育協会、クリチバの2つのイベントはクリチバ日伯文化援護協会が組織している。ポルトアレグレの場合、様子が少し異なる。サンパウロ州やパラナ州と比較し日系移住者が非常に少ないところから、リオグランデドスル州やポルトアレグレ市の日系社会総出のイベントとなっている。主催者は日本祭り実行委員会であるが、構成団体を見ると南伯日本商工会議所、南日伯援護協会、ポルトアレグレ文化協会、ポルトアレグレ婦人会、ポルトアレグレ青年会の5団体である。

「日本祭り」はどのような内容か？

では、ブラジル各地の「日本祭り」では、何をどのように展示紹介しているのでしょうか？何が魅力となっているのでしょうか？6つの「日本祭り」に共通して出展・紹介されていることから始めよう。

①「ガストロノミー広場」

サンパウロでは、そう呼んでいる。47の都道府県から地域の自慢の料理が提供される。2017年は53の団体が出店した。ニッケイ新聞の2017年7月12日号で取り上げられた地方自慢の料理・食べ物は、鹿児島県人会の「かるかん饅頭」、香川県人会の「讃岐うどん」、和歌山県人会による「関西風お好み焼き」、埼玉県人会による「クレープとカレーパン」、山口県人会による「バリバリそば」等々。



ポルトアレグレの日本祭りの日本食コーナーの盛況

誰もが知っている山梨の「ほうとう」や秋田の「きりたんぼ」等も毎回人気を集める。日本のあらゆる地方の名物料理が賞味できるのが最大のメリットである。他の「日本祭り」でも規模は小さくなるが、日本食コーナーが設置され、各県の自慢料理を賞味することができる。日本食の世界的ブームとも相まって、最も魅力的なコーナーである。

②日本の文化・芸能の紹介ステージ

食べ物と並んで人気を集めるのは、日本の民謡、踊り、盆踊り、カラオケ、太鼓、よさこいソーラン、柔道、空手、合気道、生け花、茶道等々が特設ステージ等で披露されるコーナーであり、テーマによってはワークショップもある。日本の伝統芸能、文化、スポーツが一堂に鑑賞することができる。

③企業等の展示ブース

サンパウロの場合、様々な業種の企業・団体等300社が出展している。その中には、日本からの進出企業、コロニアの企業、ブラジル企業、即売のための中小零細企業が含まれる。展示のほか即売も行われる。ブラジル人来場者も日本製の商品を購入することを楽しみにしている。他の「日本祭り」でも規模は小さいが、企業ブースが設けられている。

④マンガ、アニメ、コスプレコーナー

サンパウロやマリンガの場合、「アキバ・コスプレ」という名前のコーナーがある。コスプレは、ブラジルでも人気があるが、サンパウロの「アキバ・コスプレ」はブラジルでもベストのコスプレイヤーが集まると言われている。クリチバの「移民祭り」では、「マンガコンクール」があるし、ポルトアレグレもマンガ・アニメコーナーが設置ある。



サンパウロの日本祭りのマンガのポスター

⑤「ミス日系ブラジル」や「ミス日系サンパウロ」

ミス・コンテストは、サンパウロの独自のイベントで、2000年に開始され、2011年の第14回から本格的なイベントとなった。毎年、大いに盛り上がる。第20回（2017年）には、全国から選ばれ



サンパウロの日本祭りのミスニッケイたち

た26名のミス候補のエントリーがあり、2,500人の収容能力のあるメインステージを一杯にしたと報道されている。大人気のイベントである。

「日本祭り」の各地での位置付けは？

サンパウロの「日本祭り」は、2002年、「サンパウロ州観光カレンダー」、2004年には、「サンパウロ市公式イベント・カレンダー」に登録された。パラナ州の4つの「日本祭り」もパラナ州とそれぞれの市の公式のイベント・カレンダーに登録されている。ポルトアレグレの「日本祭り」も同様にリオグランデドスル州の公式イベント・カレンダーに組み込まれているほか、8月18日は移民船で23名の青年がリオグランデ港に到着した日にあたり、ポルトアレグレ市議会で「日本移住者の日」として制定されている。そのため日本祭りもその周辺日の土日に行われることになっている。このように、いずれの「日本祭り」も州や市が積極的に支援する重要なイベントとなっている。

その他の情報

①2017年のそれぞれの「日本祭り」の入場者数は？

すべて主催者発表になるが、サンパウロは3日間で18万2千人、ポルトアレグレは3日間で約8万人、マリンガは8日間で約8万人、ロンドリーナは5日間で約3万人、クリチバの場合2つのイベントともに2日間で約2万人となっている。

②入場料は？

当日1日入場料を参考までに記すと、サンパウロは25リアル、マリンガは6リアル、ロンドリーナは8リアル、クリチバは7リアルと、サンパウロが圧倒的に高くなっている。一方、ポルトアレグレは入場無料であるが、代わりに1kgの腐らない

食料の提供を奨励しており、それらを慈善団体や貧困者に寄贈している。

③「日本祭り」のテーマは？

サンパウロの場合、2003年の第6回よりテーマを決めて、そのコンセプトに沿って運営している。日本祭りのチャンピオンらしく、大きなテーマを設定している。ポルトアレグレも2012年の第1回より継続して地元に着目したテーマを決めている。パラナ州の4つのイベントは、必ずしも毎回テーマを設定しているわけではないようだ。

(サンパウロの日本祭りのテーマの推移は表参照)

④サンパウロの第21回日本祭りは、2018年7月20日～22日に開催される。テーマは、「移住110周年」である。7月21日（土）には、「ブラジル日本移民110周年記念式典」が日本祭りの会場で行われる。それに先立ち、パラナ州のクリチバとロンドリーナで7月19日、ローランジャとマリンガで7月20日に同様の日本移民110周年記念式典が行われることになっている。

おわりに

「日本祭り」の開催が日系コロニアに与える影響を考えてみよう。ブラジル社会において日系人が評価されていることは、誰もが認めているところである。ブラジル各地での日系人による「日本祭り」の開催は、日系人のアイデンティティの再認識に大いに役立っている。三世以降ともなれば、日本語を十分に使えない日系ブラジル人が増加する傾向にあるが、それでも、これほど立派な「日本祭り」を各地で開催する日系人の結束力をみて、三世、四世の人々も、自分たちの祖先が日本人であることを誇りに思うことに繋がるものと思われる。また日系人ではないブラジル人にとっても、アニメや漫画、太鼓や踊りを実際に見たり、バラエティに富み、健康的な日本食を試食することによって、日本や日本人に対する関心度が増加し、日本語を勉強したり、日本文化に親しむきっかけになる可能性もあろう。日系以外のブラジル人の日本語学習者数は、執筆者の駐在時代以前の2000年初め頃から急増していることでもそのことが理解できよう。さらに和太鼓を学ぶブラジル人も増加している。また、「日本祭り」の組織に当たっては、多数の日系人やブラジル人のボランティアが参画している。皆で協力し、大きなイベントを成功に導く実体験は貴重なものであるし、将来の日系人リー

ダーの育成にも繋がるものと思われる。「日本祭り」のイニシアティブは、あくまで日系コロニアの方々の発意、情熱、忍耐によるもので、日本政府やブラジル当局が資金を出したり、直接に関与したりして今に至ったわけではないということも極めて重要な点である。「日本祭り」が2017年5月にオープンした「ジャパン・ハウス」と共存して、それぞれの得意の分野を打ち出しながら、シナジー効果を発揮して行くことが望まれる。

サンパウロの日本祭りのテーマ（2003年～18年）

開催年	回数	テーマ
2003年	第6回	戦後50年
2004年	第7回	サムライ
2005年	第8回	アニメ・漫画
2006年	第9回	まつり
2007年	第10回	美と芸術
2008年	第11回	移民100周年
2009年	第12回	環境保護年
2010年	第13回	ふるさとの伝承文化
2011年	第14回	食と健康 甦れ美しき日本
2012年	第15回	共存する進歩と環境
2013年	第16回	地球に優しい技術と進歩
2014年	第17回	三方よし
2015年	第18回	日伯120年の絆
2016年	第19回	スポーツと健康
2017年	第20回	120年の軌跡
2018年	第21回	移住110周年

出所：県連のホームページに基づき執筆者作成

(さくら いじ 元日本貿易振興機構 (JETRO) サンパウロ事務所長、
ラテンアメリカ協会理事)